

# ウクライナ侵攻と 市民たちの抵抗

2022年2月24日、ロシアがウクライナに侵攻した。

講演者の藤原亮司氏は、翌月3月～4月にかけて約5週間、現地取材した。そこで出会った市民たちは、それぞれが自らできる方法で、ソビエト連邦時代を経てようやく手に入れた「自由」を奪われたくないと、侵攻に抵抗する姿を見せていた。日本ではゼレンスキー政権による「国家総動員」や、戦争協力への「同調圧力」を懸念する専門家などの意見もあった。しかし、侵攻とともに復活した徴兵制は志願者が多いために機能せず、また軍に志願しない老若男女たちは自発的に避難所の開設と運営、支援物資の集積所、迷彩ネットや火炎瓶、車止めの製造などを行っていた。驚いたのは彼らから「何もしない人」「避難していく人」たちへの批判めいた言葉をひと言も聞かなかったことだった。個人がそれぞれに選択したことを尊重し、自分ができることをする。ウクライナの人たちの「自由を失いたくない」という気持ちと、徹底した個人主義の浸透を感じた。現場に行かなければ、戦取材の経験を彼らに当てはめ、押し付けるような印象を持ったかもしれない。本公演では、講演者が接した戦時下に暮らす人々の姿を報告する。



講師：藤原 亮司 (ジャーナリスト/ジャパンプレス所属)

大阪府出身。1998年から継続してパレスチナ問題の取材を続けている。他に、シリア内戦、ウクライナ、レバノン、アフガニスタン、イラク、ヨルダン、トルコ、コソボなどにおいて紛争や民族問題、国内では在日コリアン、東日本大震災や原発被害の取材を行う。

司会：石井 正子 (アジア地域研究所所長・本学異文化コミュニケーション学部教授)

2022年 **12月21日** (水) 17:10 ~ 19:00  
立教大学池袋キャンパス10号館 X304教室

申込：下記の登録フォームまたは右のQRコードからお申込ください。(定員：先着70名)

<https://forms.gle/twdKhXWJwz4jBCdJ6>

↓こちらから  
アクセス可

